

5 年 2 組 国語科学習指導案

場 所 5 年 2 組教室

1 単元名 ニュース番組を作ろう

2 教材名 ニュース番組作りの現場から

3 単元のねらい

【関心・意欲・態度】

・ニュースの話題設定や取材に進んで取り組み、ニュースの伝え方を工夫しようとしている。

【話すこと・聞くこと】

・児童会活動・クラブ活動・6年生の活動などの校内の話題について、班ごとにニュースを伝え合う中で、語句の定義・事例紹介・引用・対話・適切な資料提示・構成の工夫などをしながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりすることができる。

【読むこと】

・自分たちのニュース番組作りに生かすために、説明文「ニュース番組作りの現場から」を読み、「ニュース番組作りの過程で大事なこと・気をつけること」を読み取ることができる。

・自分たちのニュース番組作りに生かすために、新聞記事を読み、編集の仕方や記事の書き方について学ぶことができる。

4 単元における主な言語活動

小学校学習指導要領解説 国語編の p 7 8 より

「話すこと・聞くこと」の言語活動例のア

資料を提示しながら説明や報告をしたり、それらを聞いて助言や提案をしたりする言語活動
相手に対して説明や報告をするときに、資料を提示しながら発表することや、それらを聞いて助言や提案をする活動である。

準備した説明や報告の発表原稿にふさわしく、相手の理解を深められるような資料を提示することを求めている。適切な資料の選択や作成と、それらを活用した話し方が重要となる。

資料としては、本や文章、実物や映像、リーフレットやパンフレット、図表などから適切なものを用いることになる。また、話す内容と資料との整合、適切な時間や機会での資料の提示、スピーチ原稿や資料への目配りの仕方、相手の反応などに注意しながら話させるようにすることが必要となる。

5 本単元のねらいに関わる学年の児童の実態

(1) 関心・意欲・態度 (○ : できている □ : 課題である)

○ インタビューしたり取材したりする活動に興味をもつ児童が多い。

○ 1 学期の話すこと・聞くことの単元「インタビュー名人になろう」の学習を通して、取材相手から情報を詳しく聞こうとする態度が見られるようになった。

□ 進んで新聞を読む、ニュースを視聴するなど、メディアの伝え方に関心をもつ点に課題。

(2) 話すこと・聞くこと (○ : できている □ : 課題である)

○ 初めに結論を言い、理由を後から述べる話し方のできる児童が多い。

○ 1 学期の話すこと・聞くことの単元「インタビュー名人になろう」の学習を通して、取材相手の返答を受けて、問い返しをしたり感想を述べたりできる児童が増えてきた。

□ 対話・引用・資料提示・構成の工夫など、話題を工夫して伝える点に課題がある。

(3) 読むこと (○ : できている □ : 課題である)

○ 4 年生の 2 学期に『『伝え合う』ということ』の単元で、記事の書き方や編集の仕方を学んだ。

6 研究テーマに関わって

(1) 学習のユニバーサルデザイン化

提示資料におけるキーワード化・色分け

・ニュースを初めて聞く相手の立場に立ったとき、「伝える情報を精選し、情報量を制限す

ること」が重要である。提示資料を作成するときは、伝えたい内容を十分に吟味し、キーワード・キーセンテンスだけ書くようにする。

- ・読みやすくする視覚的支援として、「提示資料の行ごとに文字の色を変える工夫」をした。

(2) 協同的に学び合う学習集団の育成

「話題別グループ交流」と「発表班でのグループ交流」の位置付け

- ・目的に応じて、2種類のグループ交流をする。
- ・一つ目は、「話題別グループ交流」である。単元の導入の話題決定の段階で、委員会活動・クラブ活動など、話題別にグループを作る。そして、発表内容が重複しないように、話し合って内容の割り振りをする。
- ・二つ目は、「発表班でのグループ交流」である。発表班は、生活班である。グループ交流をして、話題の紹介順、司会者と取材者との対話の仕方等、内容の検討や発表練習をする。

(3) 言語活動の充実を目指した単元指導計画のあり方

指導事項及び言語活動を系統的・発展的に配置した年間指導計画（年間）

- ・1学期、単元「インタビュー名人になろう」で、インタビューの仕方を習得した。本単元では、1学期に習得したインタビューの仕方を活用し、6年生やフリーの教師に取材する。第3次を中心とした言語活動の充実（各単元）
- ・本単元のニュース番組作りのポイントは、「話題の限定化・準備の簡略化」である。限られた時間数でニュース番組を作るために、「話題を限定し、より少ない準備で、より短時間で、分かりやすく印象的なニュース番組を作ること」を目指した。
- ・まず、話題や取材対象を、校内に限定した。話題は「児童会の委員会活動・クラブ活動・6年生の活動・フリーの先生の仕事内容」である。
- ・準備の簡略化を目指し、提示資料には、模造紙は使わず、4つ切りの画用紙を使った。習得・活用のサイクルを生み出す系統的・発展的な単元構成（各単元）
- ・第1次に、「新聞記事を読む」言語活動を位置付けた。これは、読むことの言語活動例のウ「編集の仕方や記事の書き方に注意して新聞を読むこと。」に当たる。ニュース番組と新聞、どちらも「事実を伝え、資料を提示しながら説明する点」に共通点がある。新聞記事を読むことで編集の仕方や記事の書き方等を習得し、後のニュース番組作りで活用する。

(4) 協同的な学び合いを通して、読みや表現を深める授業のあり方

児童が見通しと自分の願いをもち、学習を振りかえる場の設定

- ・各班のニュース発表の最初に、各自が個人課題を発表する。
- ・音声言語の問題点は、「話した端から消えていく」点にある。そのため、手元に視覚的に残る反省材料がなく、振り返りが困難になる。そこで、ビデオを使って、ニュース発表を録画することにした。振り返りの際に、再生して振り返りをしやすいようにする。

言語活動の充実を目指した工夫改善

- ・本時は、いよいよ本番の「ニュース番組の発表の時間」である。聞き手にとっては、「ニュース番組の発表を聞いて、よかった点や助言・提案をする時間」となる。
- ・工夫改善の手だてとして、ビデオ・電子黒板等の情報機器を活用する。本時の授業の重要な担い手は「聞き手」である。聞き手がよかった点や助言・提案を伝えることで、ニュースの伝え方が改善し、向上する。そのために、ビデオで録画・再生し、発表を活発化する。

協同的な学び合いを生み出す指導・援助

- ・本時における「協同的な学び合い」とは、「ニュース番組の発表を聞き、よかった点や助言・提案を伝えること」である。そのためには、よかった点や助言や提案を伝える観点を明確にする必要がある。そのための手立てが、「ニュースの伝え方のポイント表」と「ニュースの伝え方の評価カード」である。ポイント表は黒板に掲示し、常に確認できるようにする。評価カードは児童に手元に置いて活用させる。

(5) 他の教育活動との関連

- ・単元終了後、4・5・6年合同集会を開き、ニュース番組を発表する。下級生である4年生は、ニュースの内容や発表の工夫などを学び、5年生への憧れをもつ機会とする。最高学年の6年生にはニュースの発表を評価してもらい、5年生が自信をもつ機会としたい。

7 単元指導計画（全 13 時間）

時間	主な学習活動	指導・援助
1	教師によるニュースのモデル発表を見る。 本時の課題を確認する。 単元の目標を確かめ、学習の見通しをもとう。 教師の説明を聞き、単元の目標と計画を理解する。	ニュースの発表の仕方を理解させるため、導入で「T1とT2によるニュースのモデル発表」をする。 授業の終末で「家で新聞記事を切り抜き、次時に持参すること」を予告する。
2	新聞記事を教師が提示し、本時の課題を確認する。 新聞記事にはどんな工夫があるのか、見つけよう。 自分が集めた新聞記事の工夫を見つけ、ペア交流する。	工夫を見つける視点を板書する。 ア どんな情報がのっているか。 イ どんな構成を取っているか。 ウ 分かりやすく印象的にする工夫は何か。
3・4	説明文「ニュース番組作りの現場から」を音読する。 本時の課題を確認する。 説明文を読み、ニュース番組作りの過程で大事なこと・気をつけることは何か、読み取ろう。 「一人読み」の後、ペア交流・全体交流をする。	課題を見つけられない児童のために、答えの段落の番号を板書する。 全体交流の途中で、必要に応じてニュース番組のVTRを見せて、理解を深める。
5・6	本時の課題を確認する。 ニュース番組の話題を班ごとにわりふって、班内で役割分担をしよう。 各自で話題を考えた後、全体交流する。 班で話題を分担後、話題別グループで交流する。 司会者・取材者など、班内で役割分担をする。	話題を決める条件として、「身近に取材できること・来年度に役立つこと」を挙げる。 話題の主候補は以下のとおり。 ・児童委員会活動・クラブ活動 ・6年生の活動（ファミリー活動、修学旅行、愛校当番など） ・フリーの先生の仕事内容
7・8	本時の課題を確認する。 ニュース番組の発表メモを書き、読み合って助言や提案をしよう。 発表メモを書いた後、ペア交流・班交流をする。	文末まで書かず、キーワードだけ書く、記号化するなど、発表メモの書き方のポイントを板書で示す。 発表メモを書くことが困難な児童は原稿を書いてよいこととする。 発表メモと共に掲示物も作成する。
9	本時の課題を確認する。 分かりやすく、しかも印象的になるように、ニュース番組の発表練習をしよう。 班ごとに発表練習をする。	計測係はストップウォッチを使ってタイムを計る。制限時間の5分間を超えないようにする。 適切な時間や機会で資料を提示することを助言する。
10	本時の課題を確認する。 班同士のリハーサルで助言や提案をして、より分かりやすく印象的なニュース番組にしよう。 班同士でリハーサルを見合い、助言・提案をする。	助言・提案が十分に出ない場合は、司会役が「ニュースの伝え方のポイント表」を指差して、「話し方についてはどうだったか」など問いかけて、ポイントを再確認する。
11・12 本時	本時の課題を確認する。 分かりやすく印象的になるようにニュース番組を発表し、よかった点、助言や提案を伝え合おう。 班ごとに発表した後、よかった点等を伝える。	よかった点、助言や提案を伝えることができるように、発表前に聞き手はメモを取ることを確かめる。 4・5・6年合同集会でさらによい発表にするために、受けた助言や提案は記録するよう指示する。
13	本時の課題を確認する。 単元で学んだこと・身に付けた力は何か、書きまとめ、練習しよう。 各自で書きまとめた後、班内で交流する。	書きまとめる際には、自分が受けた助言や提案の内容を記述するように助言する。 班交流では、4・5・6年合同集会に向けたためあてや改善点を明らかにする。

取材期間（話題化から疑問化へ・再取材）

4・5・6年合同集会：5年生によるニュース番組の発表（体育館）

8 本時のねらい

話し手：より分かりやすく印象的なニュース番組にするために、班でニュース番組を発表し、聞き手の意見を参考にして、自分たちのニュースの伝え方のよかった点や改善点を見つけることができる。

聞き手：ニュース番組の発表を聞き、語句の定義・事例紹介・引用・対話・適切な資料提示・構成の工夫といった観点から、よかった点や助言・提案を伝えることができる。

9 本時の展開（12 / 13）

過程	主な学習活動	指導・援助
つかむ	本時の課題を確認する。 課題：分かりやすく印象的になるようにニュース番組を発表し、よかった点、助言や提案を伝え合おう。 評価の観点を確認する。 評価の観点：語句の定義・事例紹介・引用・対話・適切な資料提示・構成の工夫など	課題について教師が説明する際、「分かりやすく印象的なニュース番組にする」という目標を確認する。 黒板に掲示してある「ニュースの伝え方のポイント表」を教師が指し示して、評価の観点を確認する。
考える	ニュース番組を発表する。 Aさんの個人課題：資料提示のタイミングを合わせること。 【ニュース番組の発表例】 司会者のBさん：・まずは、委員会活動の話題です。 取材者のAさん：・私は、生活委員会による「運動会の器具の準備の苦労と喜び」について取材しました。 ・まず、器具の準備をするとき、どんな苦労があるか、6年生のEさんに取材しました。 ・Eさんは、こんなエピソードを語ってくれました。（同時に、事例の資料を提示する。）	児童によるビデオ撮影係の合図で、発表を開始する。 ニュース発表の始めに、班の全員が個人課題を発表するよう指示する。 聞き手が発表班の個人課題のメモを取っているか、見届け、不十分な場合はメモを取るよう指示する。 計測係はストップウォッチでタイムを計る。制限時間を超えないようにする。
広げる・深める	「ニュースの伝え方のポイント表」を踏まえ、よかった点、助言・提案を発表する。 【ニュースの伝え方のポイント表】 <話し方> ゆっくりと、間を考え、抑揚を付けている。 結論・理由の順で述べており、分かりやすい。 「難易語句」の説明があり、分かりやすい。 事例や「引用された言葉」が印象的である。 話の構成に工夫があり、印象的である。 <対話> 身体と目線を向き合わせて対話している。 司会者と取材者による対話がかみ合っている。 司会者の返答や感想が効果的である。 <資料提示> 資料の文字数や色分けなどが適切である。 資料をタイミングよく提示している。 資料への指差しなど工夫があり、分かりやすい。 Cさん：資料提示について、エピソードの説明と資料を見せるタイミングがぴったりと合っていて、印象的でした。 Dさん：話し方について提案で、Eさんの取材で印象に残った言葉を引用すると、さらに印象的になると思います。	助言や提案が十分に出ないときは、黒板に掲示してある「ニュースの伝え方のポイント表」を指差し、「資料提示についてはどうだったか」など問いかけ、ポイントを再確認する。 「単元終了後の、4・5・6年号合同集会でのニュース番組の発表」について教師が説明し、「聞き手が積極的に意見を発表することが、ニュースの伝え方をよりよくすることになる」と意味付けをする。 聞き手の聞き取りの状況に応じて、ビデオの映像を見直し、聞き手が意見を発表しやすいようにする。場面によっては、「一時停止」をして、じっくり見直す。
まとめる	個人課題などについて振り返りを書く。 Aさんの振り返り：資料提示のタイミングを合わせることができた。合同集会では、6年生の言葉を引用したい。	改善点が明らかになった児童を指名し、発表させる。